

ジブチ月例報告 (2025年2月)

在ジブチ日本国大使館

【内政】

- 2月4日、ゲレ大統領主宰の第3回閣議が行われ、公務員の年金支払い規定の改定に関する法律案が審議され承認された。
- 2月17日、新たなAUC委員長に選出されたユスフ外相の凱旋を祝うレセプションが人民宮殿において開催された。ゲレ大統領は、ユスフ外相の当選を祝うため集まった多くの群衆を前に「国家の偉大さは、勝利の規模によって測られるのではなく、逆境に直面しても結束を保つ能力によって測られる。結束と調和の中でこそ、我々は発展のためのあらゆる課題に立ち向かうことができる」と述べた。また、ユスフ外相は「ゲレ大統領の揺るぎないコミットメントなしには、このようなことは不可能であった。彼は私の道しるべであり、師であり、国際舞台でのジブチの発言力を支えてくれた人である」と述べた。

【外政】

- ディレイタ国民議会議長は、2月9日から16日までモスクワを公式訪問した。今回の訪問は、ジブチとロシアの二国間関係強化の一環であり、特に議会・外交協力を重点を置いた議論が行われた。
- 2月10日、バードン法務・刑務大臣は、AUC委員長選挙への立候補を表明しているユスフ大臣の支援キャンペーンの一環として、ナミビアのウイントフックへの実務訪問を行った。ンダイトワ・新ナミビア大統領への面会を行った同大臣は、ゲレ大統領のメッセージを伝えるとともに、サム・ヌジョマ元ナミビア大統領の死去に伴う哀悼の意を表明した。また会談では、アフリカ大陸の平和、開発、経済統合等、共通の関心事項について意見が交わされた。
- 2月14日、ゲレ大統領は、第38回アフリカ連合総会に出席するためアディス・アベバに向け出発した。同会議は、「賠償を通じたアフリカ人とアフリカ系住民のための正義」をテーマに掲げ、植民地化、奴隷制、アパルトヘイトなど、人類の歴史の中で幾度となく人種差別の犠牲となってきたアフリカの人々に対する金銭的賠償の要求を承認することを目的とした議論が行われた。
- 2月15日、エチオピアで開催されたAUC委員長選挙において、ユスフ外相が新たなAUC委員長として選出された。
- 2月19日、マリアム・デジタル経済・イノベーション大臣は、ヨルダンのアンマンで開催された国際デジタル協力フォーラムに参加した。本フォーラムでは、デジタル・インクルージョンの拡大、サイバーセキュリティの強化、技術革新の促進に向けた国際協力に特に焦点を当て、デジタル変革の課題と機会について議論が行

われ、デジタル技術を通じて世界的な接続性を向上させ、持続可能な開発を促進するための解決策についても検討が行われた。

● 2月27日、ゲレ大統領は、ジブチ政府要人、各国駐在ジブチ大使やジブチ駐在各国大使らを招き、ユスフ外相のAUC委員長就任の祝賀記念昼食会を開催した。

【経済・開発】

● 2月10日、ヨニス・エネルギー大臣は、新たに着任したケイヴウム（Keivom）駐ジブチ・インド大使を迎えた。会談では、ジブチとインドの友好関係及び協力関係の更なる発展方法やエネルギー分野での協力について話し合いが行われた。また、再生可能エネルギーの開発、特にジブチにおけるグリーン・エネルギー・プロジェクトの実施、遠隔地の村落における小規模太陽光発電所の設置、ジブチにおける太陽光発電技術専門のSTAR-Cセンターの設立、エネルギー省の技術者のための能力開発・技能向上プログラムの導入等についても議論が行われた。

● 2月10日、ラドワン通信大臣は、キエルシュット（Kierscht）駐ジブチ米国大使を迎え、情報通信技術とメディア分野における二国間協力の強化について会談を行った。議論の中心となったのは、ジブチのデジタル変革を支援するための戦略的交流の強化と、この分野におけるアフリカの地域ハブとしての地位を確保であり、キエルシュット駐ジブチ米国大使からは、これらの重要な分野についてジブチの支援を行うとの決意が示された。

● 2月15日、ラドワン通信大臣はクウェートを訪問し、同国のアブドゥルラマン（Mr. Abdulrahman Badah Abdulrahman Al Mutairi）情報文化大臣と会談を行った。会談では、ジブチ・クウェート間の専門知識やコンテンツ交換を促進するためのRTD（ジブチ国営テレビ局）からのパートナーシップ提案、広報及び視聴覚プロジェクトの開発に関する意見交換が実施された。

【保健・衛生・社会】

● 2月7日、ジブチ市内において第24回ジブチ国際ハーフマラソンが開催された。

● 2月7日、アフメッド保健大臣の参加の下、「調整（Coordination）」と呼ばれる本格的な海難救助訓練が実施された。本訓練はジブチ大学が主催し、内務省、大学病院、ジブチ軍病院、国家警察、国家憲兵隊等の多くの機関が参加し、緊急チームの対応能力の評価や大規模災害に直面した際の組織間の連携を確認した。

【軍事・治安】

● 2月9日、ハッサン内務大臣は、テレビ放送された声明の中で、ジブチ国内における銃器類の所持について堅く禁じることを強調し、違反した場合は厳しく罰すると述べた。また、治安当局による国内全域での銃器類取締り活動の強化を発表し、

不法に武器を所持している者は現行法に従い逮捕され、裁判にかけられるとした。

【日本関係】

- 2月4日、原大使は、日本が資金援助し、世銀が運営する日本社会開発基金（J S D F）の事業の一環として、職業訓練等を受け有望なビジネスプランを立案した女性達に開業資金を授与する式典に参加した。
- 2月11日、原大使は、アルタ州のオマール・ジャガア村において、アルタ州知事、WHO代表らとともに、マラリア予防のために日本の資金で調達された住友化学の蚊帳の住民への配布に立ち会った。
- 2月12日、原大使は、駐日ジブチ大使を15年間務めたファラ元大使との間で、様々な分野における二国間の協力について意見交換を実施した。
- 2月17日、原大使は、世銀の日本信託基金（P H R D）が資金提供を行っている、ジブチの公衆衛生分野の改革の分析プロジェクトの進捗状況について、世界銀行と意見交換を実施した。
- 2月20日、大使公邸にて天皇誕生日祝賀レセプションを開催。ディレイタ国民議会議長やナビル高等教育・研究大臣等、ジブチ政府関係者や各国大使、企業関係者等が出席した。同レセプションでは、自衛隊拠点による日本文化展示（柔道、三線）が行われたほか、当地におけるJ I C A及び自衛隊拠点の活動並びにJap' Anime Djiboutiによる漫画等を紹介するブースが設置された。
- 2月20日、三菱商事、三井物産、伊藤忠商事、J T インターナショナルといった日本企業代表者がジブチを訪問し、ハディ港湾・フリー・ゾーン庁長官、サフィア投資庁長官、ユスフ商工会議所会頭と面談を行った。
- 2月24日、原大使は、ジブチ沿岸警備隊と日本の海上保安庁等により実施された、海賊移送共同訓練の視察を行った。
- 2月26日、原大使は、モハメッド駐ジブチ・モロッコ臨時代理大使を迎え、ジブチの地政戦略的重要性、協力分野、地域的・国際的課題等について意見交換を実施した。

（了）